

《 石 油 情 勢 》

1. 国際情勢

(1) 石油需要

現在は、米中貿易摩擦をはじめとする経済不安による、世界的な景気後退によりエネルギー需要が減少しています。

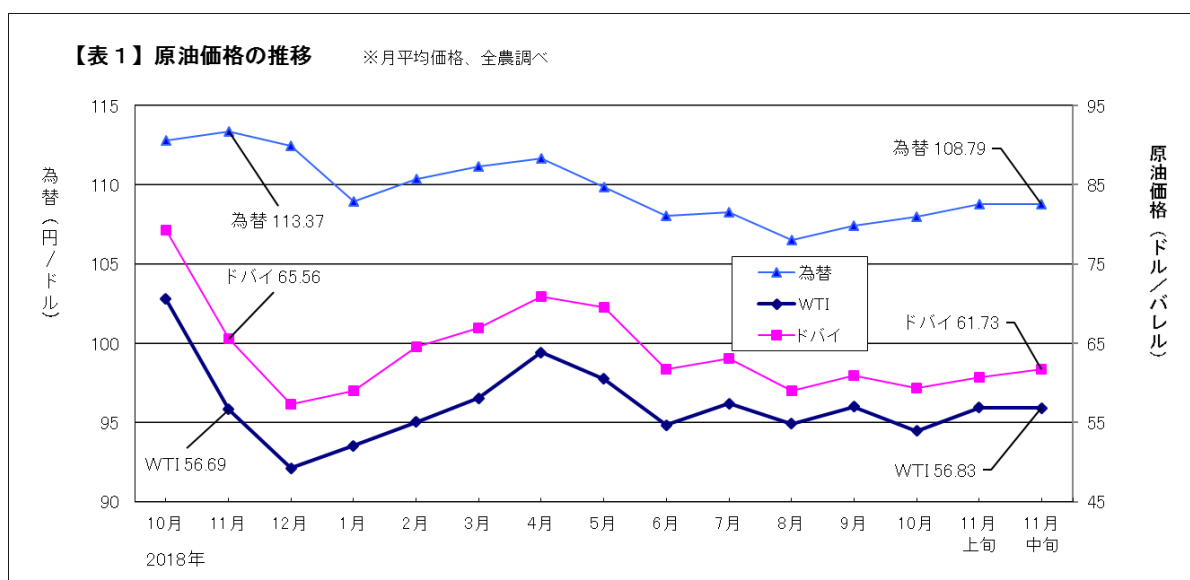
米中貿易摩擦が解決に向かえば、景気が回復し需要が増え原油価格が上昇すると思われれます。

(2) 石油供給

石油輸出国機構（OPEC）やロシアなどの非加盟国が協調減産（在庫調整）をおこなっていますが、12月上旬の会合で協調減産が継続される見通しとなっています。また、米国のシェールオイルの生産量についても、2019年は当初想定を下回る見込みであることから在庫調整がはかられています。なお、イランを巡る地政学的リスクも高まっています（原油価格上昇要因）。

(3) 原油価格

パリ協定など環境規制強化の影響で、油田の開発投資は数年前に比べて低下しており、来年は原油価格の上昇圧力がやや強まるとの情報もありますが、当面は現状の水準で推移すると思われれます。



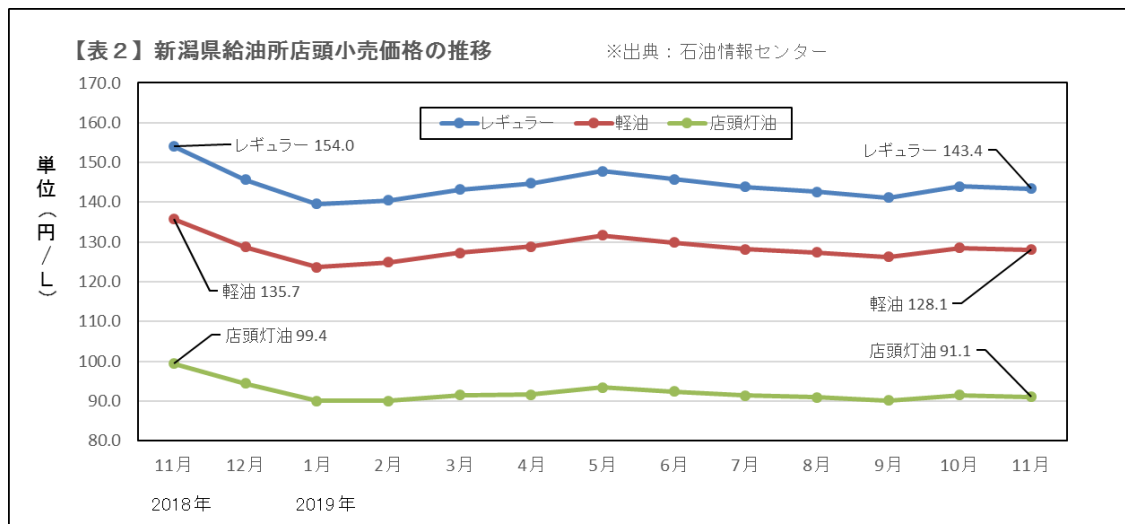
<用語の解説>

- WTI…米国産原油で世界の原油市況の指標。
- ドバイ…ドバイ産原油でアジアの原油価格の指標。
- バレル…原油や石油製品の国際的な計量単位。1バレルは約159リットル。

2. 国内情勢

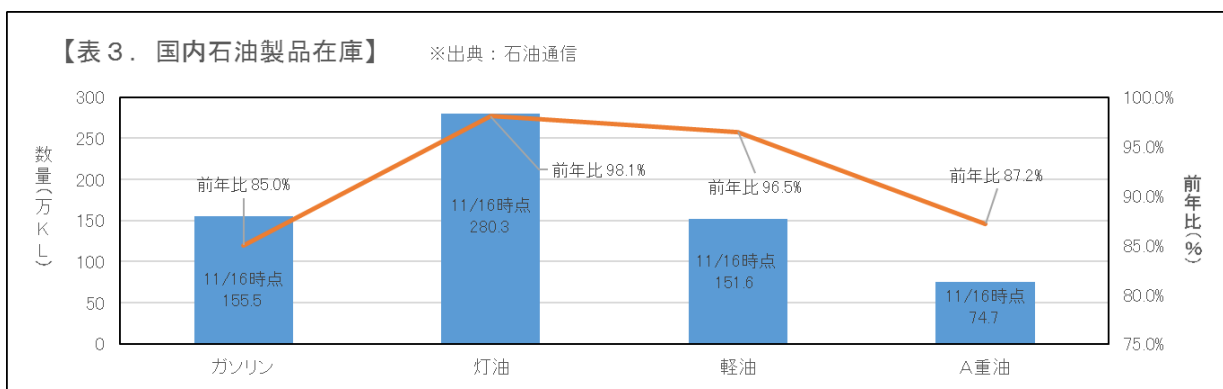
(1) 店頭小売価格

原油価格に連動して、現在は比較的安定して推移しています。
 今後も国際情勢に大きな変化がなければ、同水準で推移すると思われます。



(2) 国内石油製品在庫

ガソリン・A重油の在庫は前年を下回っていますが、需要期を迎える灯油・軽油は概ね前年並みの在庫となっています。



(3) 12月からの3か月予報

気象庁の発表によれば、暖冬の予報となっています。

【表4. 北陸地方 3か月予報】

※出典：気象庁

期間・月	内容
12～2月	この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。 降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。降雪量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
12月	平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。 気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1月	平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
2月	平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

以上

(石油事業部)

※掲載内容の無断使用・転載を禁じます。